

日本共産党 青森市政だより

発行 日本共産党青森市議団
〒030-0822 青森市中央1-22-5 市議会日本共産党控室

市議会日本共産党控室 ☎ 017-734-1111
(内線) 6017
直通・FAX兼用 ☎ 017-722-8904
メールアドレス kyousant@grace.ocn.ne.jp
日本共産党東青地区委員会 ☎ 017-777-7241
ご意見・ご相談をお気軽にお寄せ下さい。

議会 報告



クレマチス

25年の国体実施会場決定済み

「市アリーナ」での実施競技なし

小野寺市長が操車場跡地にアリーナを建設し、2025年の青森国体に合うようにすることに重大な疑問ができました。国体開催の準備を進める県の準備委員会では、開催市町村と開催会場を1月15日に一部種目を除いて決定していました。市長の記者会見は、その決定に横車を押すものになりました。藤原浩平市議の一般質問で明らかになりました。

小野寺市長は、操車場跡地に屋内体育施設（アリーナ）を2025年開催の青森国体を念頭に建設するとしています。しかし、県の青森国体準備委員会では、今年1月15日に37の実施競技と開催場所のうち、水泳、馬術、ホッケー等を除き屋

内競技は、すべて決定しました。青森市内の屋内競技の実施会場は、バレーボールと卓球がマエダアリーナ。ハンドボールが盛運動輪アリーナ。ボクシングは青森産業会館。スポーツクライミングは盛運輸アリーナとなりました。

中央競技 団体の視察

国体準備委員会の本番までのスケジュールが作られ、年度ごとに着実に実行されています。2019年度は、実施会場が決まったことを受けて、中央競技団体の現地視察が行われることになっています。しかし、市のアリーナはできていません

市アリーナ対象外

んし、実施する競技も分りませんので、視察対象にはなりません。視察の結果、変更や追加があると準備委員会では言っています。藤原市議は、「どの競技を受け持つのか」、「い

つまでに決めるのか」、「いつから建設を始めるのか」と質問しましたが、市は何も明らかにできません。それでも国体に関わると強弁するのは、あまりにも勝手な態度で、準備委員会の作業を邪魔することになると藤原市議は指摘しました。

国体準備委決定を 無視して良いのか

市長が日でした。国体準備委員会の副委員長を務めている小野寺市長は、水泳や馬術など数種目を除き、実施会場がすべて決まったことを知っていた記者発表をしたことになりません。知らなかったとすれば無責任です。どちらにしても、副委員長としてあるまじき行為と言わなければなりません。

当初の一・五倍

北九州市のスタジアム

直近の建設例として、政令市になります。福岡県北九州市のミクニワールドスタジアム北九州が2017年2月18日に開場しました。サッカーJ2（2015年）のギラヴァンツ北九州がJ1昇格を狙うには、Jリーグの昇格条件となっている1万5000席以上の施設が必要との「理由」で整備が強行された（共産党は白紙撤回を要求した）ものです。ドームではなく「開口式」のスタジアムですが、総事業費は2013年当

国体に関に合わせる必要どこに アリーナ棚上げに・ヤード跡地整備計画



天内しんや

農業の後継者不足 創設で解消を

全国的に農業従事者の高齢化や減少が進み、繁忙期における人手不足などにより、地域農業に悪影響を及ぼす恐れがあることから、担い手対策や労働力不足に対する対策が、益々重要となってきました。

りんご黒星病 被害農家の救済を

稲作については、機械化により効率性は上がりましたが、田植えや稲刈りの時期は人手が必要となります。りんごは、作業工程にもよりますが、機械化にも制限があり、一定の期間集中して労働力が必要になってくるのが実態です。

天内市議は、りんご農家から黒星病が非常に深刻だという声が寄せられているが、市はどのような対策を講じているのか見解を求めました。それに對する市の答弁

は、青森農業協同組合に確認したところ、浪岡地区の一部で発生しているとの事であり、県の6月下旬の調査結果を参考としながら、梅雨明け以降に調査を行い、把握に努

日の一般質問で、労働力不足を解消する方策として、働き手を求める農家の求人・求職情報を掲載したい方をつなぐ仕組み、「農業人材バンク」を創設して手助けするべきだと市の考えを求めました。

は、県と農協と連携して、平成30年度から平成31年度までの2か年で、農業の求人・求職情報を掲載するホームページの作成や、農業経営者が求人のノウハウや労務管理を学ぶ研修の実施、即戦力となる労働力確保のための講習の実施を行うことに

なっていると答えました。この事業に積極的に取り組んでいきたいと答えました。



手作りのベンチがある松丘保養園前バス停、待合所の設置が待たれています。

国民健康保険税

多子世帯への軽減を



村川みどり

2018年度から国保の都道府県単位化がはじまりましたが、国民健康保険制度の構造的欠陥の解決が図られるわけではありません。所得の低い世帯が多く、負担割合が他の被用者保険に比べても高いという保険料の課題が残されたままです。

者の数に於いて課税されるので、子どもが多ければ多いほど負担となる制度と

に子どもが多ければ多いほど負担となる制度とな

相馬政人税務部長は、「国民健康保険税の減免は、一つに、天災その他

は、一つに、天災その他の事情によるもの。二つに、貧困により公私の扶助を受けるもの。三つに、特別の理由があるものとして、今年度も世帯別平等割額の7割・5割

一宮市では市独自で均等割の3割減免を実施している他都市の例も示し、子どもを産み育てることを全力で応援する姿勢を示していくべきだと結びました。

村川みどり市議は、「その中でも均等割は、加入

「国民健康保険税の減免は、一つに、天災その他

一宮市では市独自で均等割の3割減免を実施して

小柳第一団地建て替え

児童遊園の整備 住民の声反映を



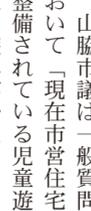
山脇たかし

小柳第一団地には児童遊園がありますが、建て替えに伴い、新たに整備がなされる計画となっています。

山脇市議は「現在市営住宅に整備されている児童遊園は、遊具が少なくあまり利用されていないという声も聞いている。広さについても十分とは言えない」と指摘し「建て替えて児童遊園も新たに整備

大櫛寛之都市整備部長は「面積の関係もあり難しい面もあるが、これから計画を検討していく中で、その中で考えていきたい」と答えました。

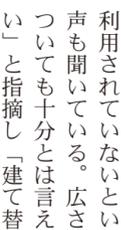
ラッピングバス導入 利用者の視点も考慮を



青森市では、市営バスの広告収入を増やす取り組みとして、バスの全面を特殊なフィルムで覆い、全面に広告を掲載したフルラッピングバスを導入し、現在4台のラッピングバスが運行しています。

青森市では、市営バスの広告収入を増やす取り組みとして、バスの全面を特殊なフィルムで覆い、全面に広告を掲載したフルラッピングバスを導入し、現在4台のラッピングバスが運行しています。

より透明性の高いフィルムを使うなど、利用者の目線も考慮してもらえないか」と質問しました。



松丘保養園前バス停、待合所の設置が待たれています。

多田弘仁交通部長は「ラッピングバスの導入に当たっては視認性の高いフィルムを使うなどして、利用者の利便性確保についても考慮しながら導入する」と答弁しました。

より透明性の高いフィルムを使うなど、利用者の目線も考慮してもらえないか」と質問しました。



館田るみ子

バス停待合所の設置の推進を

バス交通は市民の生活の移動手段として欠かすことが出来ない公共交通機関です。豪雪都市である青森市では、特に雪や雨・風からバス利用者を守るバス待合所の設置は待たれています。

所の新設については、1日あたりの平均乗車人数が概ね40人以上で、かつ待合所を建設する敷地の確保が出来ることが基準。29年度は新設が2カ所、改築が17カ所、修繕が4カ所、市では順次待合所の整備を進めることとしており、バスまち空間の向上で高齢者に優しいまちづくりを進めていくこととしている」と答えました。

館田議員は「バスまち空間向上事業」として実施した平成29年度におけるバス待合所の整備状況を示すよう求めました。

きぬけるバス停で待つ必要なければならぬバス停が沢山ある。設置する敷地が確保出来ないのならバス停に面した民有地の所有者に協力を願うのか、場合によっては用地取得してでも新設のバス停の設置に力を入れるように」と強く要望しました。



かさい育弘

さらなるごみの減量化・資源化を

青森市は平成29年4月1日から「リサイクルできる古紙等は青森市清掃工場に搬入できません」と搬入規制を実施しています。その結果、平成28年度より平成29年度は減量目標を上回る減量効果が得られました。

市清掃工場へ、浪岡地区は黒石清掃施設組合に搬入され適正に処理されていますが、黒石地区清掃施設組合では古紙類の搬入規制は行われていないため、事業系ごみのうち古紙類は焼却処理され、いまだリサイクルにつながっていません。

青森地区における事業系ごみは着実に減少し、特に段ボール、OA用紙等、リサイクルできる古紙類は古紙回収業者の協力もあり、減量化・資源化に大きく貢献しています。

浪岡地区のごみも青森市清掃工場へ処理される方向で進んでいる。黒石地区清掃組合で古紙のリサイクルができれば、スムーズに減量化しながら移行でき、リサイクル推進にも期待ができる」と実施の必要性を訴えま

市民生活から出る「家庭系ごみ」、事業所等から出る「事業系ごみ」について、青森地区は青森

かさい市議は、「将来、浪岡地区のごみも青森市清掃工場へ処理される方向で進んでいる。黒石地区清掃組合で古紙のリサイクルができれば、スムーズに減量化しながら移行でき、リサイクル推進にも期待ができる」と実施の必要性を訴えま



藤原 浩平

盲学校の通学路に点字ブロックの整備を

矢田前にある県立盲学校では、電車やバスを利用して通学する生徒がいます。しかし、最寄りの駅やバス停から校門までの通学路に点字ブロックが整備されていません。

点字ブロックの設置や、外側側の設置、スピード抑制標識の設置などド抑抑制標識の設置など様々検討したが、例えば点字ブロックの設置は、原則として歩道に設置するのが望ましいなど、実施した場合のメリット、デメリットがある。今後とも学校、警察、町会等関係機関とともに安全確保について検討をしたい」と答えました。

これに対して長井道隆都市整備部理事は「盲学校に通う生徒の通学経路の市道は幅5.5mから7mと狭く歩道もなく、バス通りでもありスピードを出す車もあることから、通学学生の安全確保が求められる」と答弁しました。

藤原市議は「通学する生徒は、矢田前で電車を降りると駅のホームには



小柳第一団地の児童遊園

小柳第一団地には児童遊園がありますが、建て替えに伴い、新たに整備がなされる計画となっています。

大櫛寛之都市整備部長は「面積の関係もあり難しい面もあるが、これから計画を検討していく中で、その中で考えていきたい」と答えました。

